



山梨県議会議員

# 古屋雅夫

## 県政だより

人街元気!!

市民と県をつなぐ架け橋

<http://www.e-masao.net>

(9月定例議会報告)

### 県民が安全・安心して心豊かに暮らせる山梨を目指す!

- 災害に強い山梨県づくりの強化
- 子育て支援、医療・介護の充実、文化芸術の薫る元気な「やまなし」

#### 平成30年9月定例県議会報告

県議会議員1年を迎え、9月定例会では早くも「代表質問」に立った。

質問では、西日本を中心に広い範囲を襲った、「豪雨災害」、「地震」等を踏まえた、①本県の土砂災害等に対する災害対策、あわせてこれまでの本県の災害の歴史や教訓を学び、自ら教訓とするとともに、次の世代へ繋げる取り組みなどを求めた。②企業立地の件数は増えているもののさらに推進強化を図るためには、まず事業用地の確保が必要の強化を求めた。③JR中央線における甲府駅までの早期快速列車の延伸の取り組みは、人口の転出の抑制に繋がることを強調しつつJR東日本への対応強化を求めた。④農業生産額1千億円の維持、拡大に向けた果樹産地の強化策を求めた。⑤H31年度から全国学力テスト・学習調査に「英語調査」の導入、生徒の不安等の解消策と県立学校のエアコン設置、洋式トイレへの改修等について考え方を質した。



所属委員会 / 土木森林環境常任委員会

#### 古屋雅夫県議 代表質問事項

1. 平成30年7月の豪雨災害を踏まえた災害対策について
2. 文化芸術基本条例の制定について
3. JR中央線における早期快速列車の導入について
4. 特別養護老人ホームなどの施設整備について
5. 森林環境税を活用した取り組みの効果と県民への周知について
6. 企業立地の促進に向けた事業用地の確保について
7. 伝統的地場産業の後継者育成について
8. 果樹産地の強化について
9. 全国学力テスト・学習調査（英語調査の導入）への取り組みについて
10. 不登校児童生徒の支援について
11. 学校教育環境（エアコン、洋式トイレ）の整備について

#### 質問に対する県の見解（一部）

##### 平成30年7月豪雨災害を踏まえた災害対策について

###### (1) 豪雨災害を踏まえた土砂災害対策について

**【知事】**ハード対策としては、山梨県社会資本整備重点計画において、土砂災害 特別警戒区域内に要配慮者利用施設などが存在している箇所を優先的に整備すべきものとして位置付け、平成31年度までに全ての箇所の対策に着手する予定となっている。

**ソフト対策**については、これまでハザードマップを住民へ配布するとともに、土砂災害発生の危険度が高まっている地域を示した地図を県のホームページで提供するなど、危険性の周知に努めてきた。しかし、西日本で発生した豪雨では、ハザードマップの有効性が確認されつつも、住民に正しく認識されていなかったことや、関係機関から発表されていた災害発生の危険性が、正しく伝わらなかったことなどから、避難行動につながらなかった可能性も指摘されている。このことから、県民のみなさんが適切な避難行動を起こすことができるよう、市町村と連携して改めてハザードマップの周知を行うとともに、災害発生時の逃げ遅れゼロを実現するための効果的な取り組みを徹底していく。

###### (2) 過去の災害の歴史や教訓に関する県民への周知について

**【防災局長】**地域における防災・減災対策を効果的に推進するためには、過去に発生した災害を知り、その教訓を生かすことが重要。引き続き本県で発生した過去の災害教訓に関する普及啓発を行い、小・中学校においては、郷土学習教材「ふるさと山梨」等を活用

し、児童生徒が、過去に本県で発生した地震や水害、富士山噴火などを学ぶとともに、災害への備えなどを考える学習が行われている。これらの取り組みに加え、本年度、防災基本条例の施行に併せ、本県の災害の歴史と教訓や、先般の豪雨災害などを踏まえた啓発映像を新たに作成する。特に、地域の特性を生かした、住民による地区防災計画の策定は必須である。このため、県では、地区防災計画の策定の推進を、防災基本条例に位置付け、本年度は、4つのモデル地区において、計画の策定を進める。これらの成果を県内全域に波及させ、早期の計画策定につなげるよう積極的に取り組むみ自助、共助、公助が一体となった防災対策の推進を図っていく。

###### JR中央線における早朝の快速列車の導入について

**【リニア交通局長】**早朝に甲府駅から東京方面に向かう快速列車を導入し、中央線の利便性を高めることは、若年層の県外への転出を抑制する上で重要である。その実現には、JR東日本から中央線の利用者の拡大が課題として示されている。このため、県では、昨年度から鉄道で通学する学生への支援を実施しており、中央線沿線の甲斐市、甲府市、笛吹市、山梨市、甲州市までの5市との連携の下、2年目となる本年度は、韮崎市と北杜市を加えた7市で、260人を超える学生がこの制度を利用して自宅から通学している。その成果もあり、平成29年度の甲府駅の1日当たりの乗車人員が前年度に比べ約300人増加するなど、通学支援制度を設けている沿線市の主要な駅においては、利用者に増加の傾向が見られる。

こうした取り組みを通じて中央線の利用者を増加させ、その実績をJR東日本等に示すことにより、早朝

の快速列車の導入をより強力に働きかけていく。

###### 特別養護老人ホームなどの施設整備について

**【知事】**今後も、高齢化の進展に伴い、特別養護老人ホーム等の施設利用者の増加が見込まれ、更に施設整備を進めていく必要があると考えている。このため、平成30年度から32年度までの3年間を計画期間とした健康長寿やまなしプランでは、特別養護老人ホームと認知症対応型グループホームを合わせ、新たに275床を必要数と見込んでおり、計画的な施設整備に取り組んでいく。また、介護保険法が改正され、本年4月から医療と介護のニーズを併せ持った高齢者のための介護保険施設として、介護医療院が創設されたことから、その整備促進を図るため、設置を行う医療機関に対して助成することとし、9月補正予算に所要の経費を計上したところである。今後も、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスなどの在宅サービスの充実に努めるとともに、特別養護老人ホームなどの施設整備を着実に進め、高齢者が安心して暮らし続けることができるよう、市町村と連携して強力に取り組んでいく。

###### 果樹産地の強化について

**【知事】**県では、果樹の安定生産や収益向上を図るための施設として、農業者やJA等が行う、天候等の影響を軽減する雨よけ施設、高値で取り引きされる早期出荷のための加温ハウスや、市場の需要に応じ出荷時期を調整する冷蔵施設などの整備に対して、様々な補助事業を活用することできめ細かに支援をしている。また、農作業の効率化を図るための基盤整備にも取り組んでおり、耕作放棄地の解消や小規模で分散した果樹園の集約に向けた、ほ場や農道の整備

を進めている。更に、果樹の将来的な需要を見据えた中で、整備した農地については、市町村や農地中間管理機構と連携して、多様な担い手へ集積することで、経営規模の拡大を促進している。今後も果樹産地における安定生産や収益の向上を目指す施設の導入を積極的に支援するとともに、基盤整備を通じて担い手への農地の集積を鋭意推進し、本県の果樹産地の強化を図っていく。

### 全国学力・学習状況調査への取り組みについて

【教育長】社会のグローバル化が急速に進展している中、今後誰でも世界の様々な国や地域の人々と協働していく機会の拡大が想定されることから、生徒の英語力を向上させることは重要と考えている。明年度から導入される英語の学習状況調査には、生徒の聞く・話す力を測る内容が導入されることから、その場で考えたことをすぐに英語で話す力を向上させることに、早急に対応していく必要があると考えている。このため、県では、「英語」を学ぶ楽しさが実感できる、先進的な対話型のビデオ教材や、調査で使用す

る機器の操作方法を解説した資料を作成し、各学校に配付するとともに、指導主事の学校訪問を通して、これらの教材や資料活用した授業の実施を積極的に指導していく。英語の調査において、生徒が不安や戸惑いを感じることなく、普段の実力が十分発揮できるよう、新たな調査の実施に備えいく。

### 不登校児童生徒への支援について

【教育長】県では、不登校児童生徒の支援体制をより一層充実させるため、不登校対策の現状や課題について検討を重ねてきた。その結果、適応指導教室等での支援を受けていない児童生徒への対応や、中学校卒業後の支援等、今後取り組みを強化すべき課題のほか、地元の教室に通えない児童生徒の受け入れなど、市町村単独では対応が難しい課題があることが明らかになった。こうした点を踏まえ、県を中核とした今後の不登校対策の在り方について、より一層きめ細かな対策の具体化を目指す。また、今後も市町村の不登校対策を積極的に支援するとともに、県と市町村、関係機関が連携した体制の充実・強化に

努めていく。

### 学校教育環境の整備について

【教育長】冷房設備については、すべての県立学校の普通教室を中心に設置をしているが、熱中症予防など児童生徒の健康管理面を重視し、教室の利用状況や部屋の設置場所をはじめとする室温等の調査に基づき、更に整備を進めていく。トイレの洋式化については、特別支援学校の設置率は、平成30年3月末現在で、84.3%となっているが、高校については、40.4%と普及が進んでいない状況にある。

特に高校については、設置率が20%台から70%台までと、学校ごとでトイレ環境に大きな格差が生じている。設置率の低い学校を対象に、当面の目標として3台に1台以上を洋式化することとし、本年度中に、その目標を達成する見込みである。今後においても、学校の改築や大規模改修の機会を捉え、洋式化を図るほか、和式便器が故障した際には、順次洋式便器に交換するなど、更なる洋式化を進めていく。

## 「決算特別委員会」(平成29年度決算審査の評価)

平成29年度の山梨県の「一般会計」、歳入面(4,588億1,357万円余)では、実質交付税が増加した一方、実質県税や県債の減少などにより、決算額は、前年度に比べ31億円余の減少となった。歳出面(4,515億1,999万円余)では、県単独公共事業などの投資的経費が増加した一方、人件費や公債費などの義務的経費の減少や、前年度の県林業公社の廃止に伴い、補助費が減少したことなどにより、決算額は、前年度に比べ44億円余の減少となった。この結果、実質収支は、前年度に比べ3億円余増加し、26億円余の黒字、実質単年度収支は、前年度の42億円余の赤字から46億円余増加し、3億円の黒字を確保した。将来に目を転じると、国・地方ともに厳しい財政状況である中、特に地方財政においては、今後見込まれる高齢化に伴う社会保障費の増加や、公共施設の老朽化対応に加え、頻発する大規模災害など、今後も財政需要は拡大するものと見込まれる。

また、財源対策として活用可能な主要三基金については、平成29年度末残高が884億円であり、このうち財政調整基金の残高は232億円となっており、この規模は全国12位という比較的高い水準にあるものの、本県のような小規模な県においては、大規模災害の発生や、マクロ経済の影響、更には、国における様々な制度変更による財政的な影響を受けやすいことから、今後も、適正な規模を確保するとともに、財政状況を勘案して活用することとしている。

今後も厳しい財政状況が続くものと考えられますが、事務事業の不断の見直しや経費節減を図るとともに、税の徴収率向上など、自主財源の確保とその重点的、効率的な配分に努めており、加えて繰越制度の活用により、公共事業における年度当初の事業量の落ち込みを抑制し、年間を通じた事業量の平準化に努めるなど予算執行にあたり、工夫を行っている努力も見受けられた。

こうした審議を踏まえ、平成29年度決算は採決の結果、賛成多数で「決算特別委員会」は認定、12月定例会本会議で扱われる。



## 平成30年12月定例会で「文化芸術基本条例の制定」へ

9月定例会代表質問において古屋雅夫県議は、「文化芸術の力で県民の心を豊かにし、活力ある地域社会をめざす」ことの重要性を提言した。この12月定例会では「文化芸術基本条例」(案)として提出され審議される。

本県には、富士山や八ヶ岳、秩父多摩甲斐国立公園をはじめとする豊かな自然や歴史、風土に育まれた伝統的な食文化、織物やジュエリーなどの伝統産業、地域に伝わる年中行事などが受け継がれており、これらの文化資源を更に磨き、確実に継承していくとともに、リニア中央新幹線の開業、東京五輪、パラリンピック大会開催を契機として更に発展させ、国内外に発信し地域活性化につなげていくことが大変重要である。提案される「文化芸術基本条例」(案)は、伝統産業や食文化など、本県の豊かで多様な文化の継承・発展と、文化資源を生かした地域の活性化、文化芸術推進月間の創設する内容となっている。今後は12月定例会の審議を得、パブリックコメントなどを通じて寄せられた県民の皆様のご意見を踏まえ、制定する条例に基づき、「基本計画」が平成31年度中に作成され、教育や福祉、観光やまちづくりなど、関連する様々な施策と連携し、心豊かな県民生活と活力ある社会の実現を目指す。



山梨市牧丘町牧平地区(秋祭り・百八灯)

## 古屋まさお県議の活動(平成30年7~10月)



7.27 山梨市学校給食センター竣工式



9.10 「角笛を吹く牛飼い」お披露目式



9.16 巨峰の丘マラソン大会(山梨市牧丘町)



9.19 議場コンサート



10.17 中央道渋滞対策促進大会



10.23 「市政功労賞」受賞

## 古屋まさおの一言 あとがき

- ▶国内：来年10月1日から消費税を10%に引き上げ！国民の期待する社会保障の充実。軽減税率対策の線引きはどうするか？また商品券配布、やり過ぎると経済悪化にも。
- ▶外交：終戦直後に旧ソ連に占領された北方四島。以来73年間、膠着状が続く中で四島返還を原則としてきた政府。二島先行返還の動きと、この島の主権等に注視したい。
- ▶県政：決算特別委員会で「胃がん」の約8割がピロリ菌の感染、除菌治療その後の検査に最高4,000円の助成制度があるが活用が低迷、PR不足など課題を指摘。
- ▶地元：冬の風物「枯露柿」造りが最盛期を迎え、北風小僧の到来で、白く化粧された美味しい「枯露柿」が全国に送り出されること願っている。